

1年生入学前・低学年までに指導すること 《山内資料》

1. 学習面の準備

《文具全般》

- ①キャラクターの文具は罪づくり。無地でシンプルな物を選択する。(気を散らさない)
- ②消しゴムはシンプルでよく消える物を選ぶ。(色つき、臭い付きは必要なし。)
- ③消しゴムは、すぐ使える形にしたものを持たせる。
- ④多機能筆箱は、単なる遊び道具。必要な機能のみで十分。(落としても音が出ない物)
- ⑤定規は折れにくいものを選ぶ。(透けて見える透明な物がよい。)
- ⑥鉛筆キャップは必要なし。学校から指示された以外の余分な文具は買わない。
- ⑦赤青鉛筆以下は、丸い鉛筆は買わない。(丸い鉛筆は転がってしまう。)
- ⑧スティックのりは、透明なゼリー状のものより白いものの方がよい。(塗りやすい)
- ⑨ハサミは、本人の使い慣れたものを、あらかじめ購入し家で練習しておく。
- ⑩鉛筆削りは、自宅で自分で削る習慣をつけておく。
- ⑪紛失しそうな文具の予備をワンセット担任に預けておくことも一つの方法
- ⑫入れる場所をシール等であらかじめ決めておく、消しゴム等写真撮ってその上に置く。

《算数》

- ①数を正しく数える時は、〇でかこうなど、印をつける習慣を身につけておく。
- ②10までの数字を正しく書く。(「5の書き順」「0の読み方」「0の書き方」)
- ③「10ごとにまとめるとよい」→とても大切な考え方
- ④10のまとまりを〇で囲えるようにしておく。
- ⑤「前から〇番目」「後ろから〇人」普段の生活の中で経験をさせる。
- ⑥「いくつといくつ」少ない数から、手で隠して遊ぶ。(目に見えない数を考える。)
- ⑦たしざん(1)ひきざん(1)指や具体物でおもいきり経験させる。
- ⑧時計は、針の時計を準備して、日頃から慣れさせておく。(何時・何時半・何時何分)
- ⑨パズルや積み木遊びをたくさん体験させる。(三角と三角で口になるなど……)
- ⑩文章問題では、指でおさえながら、丁寧に問題を読む習慣をつける。答えかも注意(3点セットで間違いは激減。)口いくつでしょう。口どちらがどれだけ……
- ⑪「長い・短い」「大きい・小さい」「多い・少ない」などの用語になれさせておく。
- ⑫サイコロを使った「双六あそび」やいろいろな「グラフ」に親しませておく。

《国語》

- ①自分の名前は書けるようにしておきたい
- ②絵本でも図鑑でもよいので本に親しむ習慣を身につけておく。(読み聞かせも大切)
※特に昔話をたくさん読み聞かせさせておいてください。
- ③語彙を増やす「しりとり遊び」
- ④ひらがなの書き順(も・よ・む)
- ⑤カタカナの形と書き順(ツとシ・ンとソ・クとワ)
- ⑥正しい言い方
「おとうさん」「おとうと」「いもうと」「おねえさん」「こおり」「グラウンド」
「おうさま」「れいそうこ」「ほうちょう」「おおかみ」「せいかつ」「たいいく」
- ⑦「一～十の読み方」
□七は、「なな」か「しち」と読む。「ひち」は×
□十は、「とお」とも読むが、「とう」は×
- ⑧一日(ついたち)の読み方 十日(とおか) 二十日(はつか) 三十日(みそか)
- ⑨はみ出してしまいうなら、大きなマスで書かせてみる。
- ⑩鉛筆の正しい持ち方は、補助具で解決。(悪い持ち方を習慣化しない。)
- ⑪本の持ち方(イスに座って読むとき・立って読むとき)
- ⑫横書きは数字、縦書きは漢字
- ⑬読点「、」や句点「。」の書く場所は右下。
- ⑭「 」の書く場所や、行の最後に読点「、」がきたときの書き方。

《その他学習関係全般》

- ①色のぬりかた(周りをぬってから中をぬるとはみ出ない。)
- ②消しゴムの消し方
- ③定規の線の引き方
- ④プリント等もらったなら、まずは、日にちと名前の記入
- ⑤教科書や持ち物の準備は、使う順番にカバンに入れる。
- ⑥名前はすべてひらがなで記名。漢字は使わない。(他の子が配るときにも困る。)
- ⑦いろいろな虫や生き物、植物、土、どろ、粘土等を触る経験をさせる。
- ⑧なわとび、てつぼう、一輪車、スイミング等様々な運動も経験させる。
- ⑨昔遊びも行います。剣玉、コマ回し、お手玉、竹馬、あやとり等を経験させる。
- ⑩手を叩きながら歌う等、音楽に親しませたい。アニメソングでもOK カラオケもOK
- ⑪えんぴつの正しい持ち方は、矯正補助具を使うと良い。
- ⑫に新しい本をもらったなら、拡げた後、上から押して折り目を付けて閉じにくくする。
- ⑬基本的に机の上で学習する時の文具や本の置き場所を決めておく。

2. 生活面の準備

- ① まずは、健康。「すっきりウンチの生活習慣」朝起きてからのパターンを同じにする。
□夜8時を過ぎたら何も食べない →
□朝ご飯前に10分動く → 胃結腸反射によって排便がスムーズに
□朝ご飯は20分かけて食べる →
- ② 通学路は入学前に練習して歩く。(2年時以降も変更しないように学校に確認)
- ③ トイレへの対応(洋式?和式?)足首までズボンを下げなくてもできるようにしておく。
- ④ 食事の指導(食べるときの姿勢・箸の使い方・三角食べ・嫌いな食べ物への対応)
- ⑤ 掃除の指導(ぞうきんのしぼり方、ほし方、ほうきの持ち方、はき方)
- ⑥ 自分の机の整理整頓(どこに何をおくか決めておく)
- ⑦ 授業(カバン)の準備の仕方、一時間目から順に準備する。
- ⑧ 提出物の出し方、学校のかごの並んでいる順番に一つずつ入れていく。ない場合は、「ありません。」や「わすれました。」を言えるようにしておく。
→学校から聞けるように準備しておく。→家でも練習 ※専用の箱が効果的
- ⑨ 靴や服、靴下等は自分で脱着ができるものにしておく。(特に靴選びは大切)
※かかとをそろえる。
- ⑩ ハンカチやマスクは、予備を必ずランドセルの中に入れておくようにする。
→担任にもしらせておく
- ⑪ あいさつの仕方。(いろいろな挨拶がある 大きい声の挨拶だけがよいわけではない)
- ⑫ 朝は、自分で起きる。
- ⑬ マスクを嫌がらない
- ⑭ 正しい手の洗い方
- ⑮ ボタンやピン(場合によっては、紐の結び方)
- ⑯ できることからお手伝い。(家庭内での位置づけ)
- ⑰ 仲良しの友達をつくり、学校の情報が入るようにしておく。
(ホームパーティーの開催を通して、積極的に友達作りを行う)
- ⑱ 水筒は、コップ式の方がよい。
- ⑲ 手紙のたたみ方、角と角をあわせて綺麗に折る練習(折り紙でできる。)
- ⑳ 当たり前のマナー(くしゃみは口を押さえる・きたない・ひわいな言葉は使わない等)
- ㉑ 交通安全(横断歩道の渡り方等)
- ㉒ お金を払って物を買うこと。
- ㉓ 呼ばれたら、しっかりと「はい」の返事ができる。
- ㉔ 正しい手の洗い方(できたら体の洗い方へできることを発展させていく。)
- ㉕ 正しい歯磨きの仕方(学校でも歯磨きをするところが増えています。)
- ㉖ うがいができない子が増えています。ご家庭で練習をしておいてください。
- ㉗ カバンにキーホルダー等はつけない。お守りもカバンの中にしまった方がよい。
- ㉘ ご褒美に容易にお金や物を渡さない。
→《よい例》頑張ったらあなたの好きなメニューの夕ご飯を手作りで作ってあげるよ。
- ㉙ 親の姿を子どもたちは見ている。まずは、親が祖父母にしているところを見せるとよい。
- ㉚ 百匹の魚を与えるのではなく、一匹の魚の釣り方を教えるつもりで、学び方を教える。
- ㉛ ほめ方は、「位置づけ」「価値付け」「方向づけ」
※特に位置づけが何よりも大切(家でのお手伝いをできるようにしておきたい。)
- ㉜ ただできたからよいのではない。『般化』→どこでもできるようにすることが大切

3. 学校との連携

- ① 入学式の練習(お願いすれば事前にできます。)
- ② 入学式後の早期の個人懇談(学校によっては入学式前に実現することも・・・)
- ③ 支援計画・今後の進路(通常に戻すか。中学校卒業後は、就労は・・・)
- ④ どのような力を身につけさせるのか。(S-M社会生活能力検査の129項目の習得)
- ⑤ 学校への要望をどうするか。(施設関係の要望は早急に行うこと。)
- ⑥ シールを貼ってほめる経験をしておく。
- ⑦ 頑張る内容をしぼって、学校と一緒に取り組む。
- ⑧ 絵カードなどを使う場合も学校と同じ物を使う。
- ⑨ 連絡帳だけではなく、携帯等で緊急の連絡がとれるかどうか確認しておく。
- ⑩ 小中との連携、今後の進路について事前に考えておく。
- ⑪ クラス編成等の要望もある程度可能(そのコツは・・・)
- ⑫ 机の場所は非常に重要。事前のお願いで場所の指定が可能。

4. 病院や福祉施設等、その他各種機関との連携

- ① 心理検査・発達検査を受診し、お子さんの実態を科学的かつ正確に把握する。
- ② お子さんを預ける場合、学童保育にするのか。放課後等デイサービスを利用するか。
- ③ お子さんの教育・進路相談について専門期間と継続的につなげていく場の確保。
(医療機関との連携 児童発達支援センター等と小学校のつなぎ)
- ④ 手帳をもらうかどうか。・・・将来を考えると決断は早めに。
- ⑤ 小学校で使える物は、できるだけ園のうちから使用させて慣れさせておく。
- ⑥ 園で信頼できる先生と出会った場合は、個人的なお付き合いを続けるとよい。